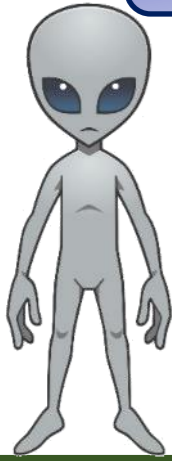


# 下京図書館だより



ある日、下京図書館に1通のメールが届いた…。

シモギョウトショカンノ、シショタチヘ。  
ワレワレハ、ウチュウジンデアル。  
ワレワレハ、チキュウノ、チョウサヲ、オコナッテイル。  
ワレワレハ、チキュウノ、イキモノニツイテ、シラベテイル。  
チキュウノ、サマザマナ、イキモノノコトガ、ヨクワカル  
ショモツヲ、ワレワレニ、ショウカイシテ、ホシイ。



司書A 「ナニコレ?! 宇宙人からのメール?!」



司書B 「なんかあやしいなあ…迷惑メールじゃない?」

司書A 「でも、“地球の様々な生き物のことがよくわかる本を紹介してほしい” って…レファレンスだよ、コレ?」

司書B 「う〜ん…。応えるべき? それにしても宇宙人って…」



司書A 「私も10年以上この仕事やってるけど、宇宙人からレファレンスがくるのは初めてだわ〜」

司書B 「“下京図書館の司書たちへ” ってハッキリ書いてあるよね。応えなかったら、もしかして地球征服とかされちゃうんじゃないの?! 副館長、どうしましょう?」

副館長 「地球征服ですって…?! それは大変! 館長、私たちが地球の危機を回避すべきでは?!」

(一同、一斉に館長の方を見る)

館長 「地球征服はマズイ…宇宙人を怒らせないように、みんな、よろしく頼む!」



…こうして、下京図書館は宇宙人からのレファレンスに応えることになった。

## For High School Students



とりあえず、ベタに哺乳類からいっとく?



『ゾウが教えてくれたこと ゾウオロジーのすすめ』(入江 尚子/著 科学同人)

地上最大の哺乳類にして動物園で人気のゾウには、野生での暮らしぶりや体のつくり、驚くべき知能など、まだまだ知られていないことがたくさんある。ゾウを愛する著者がゾウの魅力について熱く語った1冊。



鳥類なんてどう?

『となりのハト 身近な生きものの知らざる世界』(柴田 佳秀/著 山と溪谷社)



公園や駅でよく見かけるハト。かつては神の使い、平和の象徴として可愛がられてきたが、現在は…? ハトはオスもミルクを出して子育てする、ハト胸の正体はものすごい筋肉だったなど、知っているようで知らないハトの豆知識を知れば、ハトの見方が少し変わるかも。



こんな変わり種はいかが?



『カイメン すてきなスカスカ』(椿 玲未/著 岩波書店)

脳も心臓も胃腸もないスカスカの生き物、カイメン(海綿)。この地味で不思議な生き物が、実は海の生態系に大きな影響を及ぼしている…そんな知られざるカイメンの世界をわかりやすく伝える。



他にもあります! 詳しくは次のページへ!

ナルホド、チキュウノ、イキモノハ、ヒジョウニ、キョウミブカイ。  
シモギョウトショカンヨ、アリガトウ!

下京図書館の司書たちのおかげで、地球の危機は見事に回避されたのであった。めでたし、めでたし…。



やったー!

2022年12月発行

『クジラのおなかに入ったら』  
(松田 純佳/著 ナツメ社)



日本では年間約300件、クジラ等の死亡が報告される。海岸に打ちあがったクジラ等の死体の調査(ストランディング調査)を通じてわかる様々なことを、鯨類研究者である著者が解説。



クジラも哺乳類です!

『にっぽんカラス遊戯 スーパービジュアル版』  
(松原 始/監修・著 宮本 桂/写真  
ポンプラボ/編集 カンゼン)



カラスの一生をすごろく形式でたどるビジュアルガイドブック。身近すぎるゆえに、かえって見過ごされがちなカラスという野鳥の日常と一生、カラスの基礎知識が詰め込まれた一冊。

カラスもハトも地球上では身近な生き物です!




ゴキゲン♪



# 宇宙人にもおススメ(?) 地球の生きものの本




**『知っているカモ学講座  
カモ、ガン、ハクチョウのせかい』**  
嶋田 哲郎/著 森本 元/監修 緑書房




日本で冬を過ごすカモやガン、ハクチョウの一年を大きなイベントごとに詳しく解説。また、今後のカモ類研究の基本となるモニタリング技術の新展開についても詳しく説明している。

**『寝ても覚めても  
アザラシ救助隊』**  
岡崎 雅子/著 実業之日本社




アザラシが好きすぎて、日本で唯一のアザラシ保護施設の飼育員になった著者が、アザラシ保護活動に日々奮闘する姿をまとめた本。アザラシの保護と野生復帰の課題なども解説。著者のあふれるアザラシ愛を実感。

**『たくましくて美しい  
ウニと共生生物図鑑』**  
山守 瑠奈/著 創元社




トゲトゲの高級食材、ウニ。実は自身の巣穴にエビやカニなど沢山の小さな生き物たちを住まわせている“大家さん”的存在でもある。海洋生物の生態系を密かに守るウニと、そこで暮らす小さな生き物たちの姿が美しい、見て楽しめる一冊。

**『たくましくて美しい糞虫図鑑』**  
中村 圭一/著 創元社




古代エジプトでは聖なる生き物とされていた糞虫。ならまち糞虫館の館長を務める著者が、糞虫の基本がわかるQ&A、糞虫の種類や見分け方、糞虫館設立までの経緯など、糞虫の魅力を多数の写真とともに伝える。

**『おもしろいネズミの世界  
知れば知るほどムチュウになる』**  
渡部 大介/著 緑書房




ミッキーマウスやハムスターのような可愛いイメージか、あるいは害獣というマイナスイメージか。哺乳類最大グループ「齧歯目」に属するネズミの生態について、元動物園飼育員のネズミ博士が語る。

**『タコは海のスーパーインテリジェ  
ンス 海底の賢者が見せる驚異の知性』**  
池田 譲/著 化学同人




恐竜たちが闊歩していた古き時代から、頭脳と柔軟な体を使ってたたかき生き延びてきたタコ。巨大な脳と優れた眼を持ち、人間も驚くような高度な学習と記憶能力を備えた“海底の賢者”タコの知性と賢さに迫る。

**『きっと誰かに教えたくなる  
蚊学入門 知って遊んで闘って』**  
一盛 和世/編著 緑書房




人の血を吸う害虫のイメージが強い蚊を多面的に捉えること…それが、著者の提唱する“蚊学”。蚊の生態、蚊から身を守る方法、蚊が媒介する感染症、さらには蚊をテーマにした芸術作品まで、一冊まるごと“蚊学”の本。

**『にっぽんのスズメ』**  
小宮 輝之/監修 中野 さとる/写真  
ポンブラボ/編集 カンゼン




すぐそこにいる身近な鳥・スズメ。そんなスズメの生態や様々な雑学を知ることができる一冊。また、写真も多数収録されており、採餌や羽繕いから、舌を出した“ベロ出し”の貴重な写真などが満載。

**『「ゴキブリ嫌い」だったけど  
ゴキブリ研究はじめました』**  
柳澤 静磨/著 イースト・プレス




ゴキブリ大嫌いが一転、ゴキブリ研究に目覚めた著者。そして日本でゴキブリの新種を発見！その道のりをわかりやすく紹介しつつ、“嫌われ者”ゴキブリの真の姿に迫る。読めば、ゴキブリの印象がちょっと変わるかも？

**『もしも人食いワニに噛まれたら！  
最前線の研究者が語る、  
動物界最強ハンターの秘密』**  
福田 雄介/著 青春出版社




危険でどう猛なイメージが強いワニだが、実は特別な体の持ち主でもある。その驚くべき生態について、最新の研究結果をもとにわかりやすく紹介。ワニと人間社会の共存についても、いろいろと考えさせられる。

**『もえる！  
いきもののりくつ』**  
中田 兼介/著 ミシマ社




一見奇妙に見える生き物の行動も、実はちゃんとした“りくつ”がある…。そんな生き物たちの様々な事情をわかりやすく解説し、関連した新しい研究成果も併せて紹介する。

**『ウミガメは 100 キロ沖で恋を  
する 絶滅から救うため「ウミガメ保  
護」と45年間闘ってきた男の全記録』**  
菅沼 弘行/著 方丈社




かつて日本ではその肉が食されていたほど身近な存在だったウミガメが、地球から消えようとしている。なぜウミガメは減少しているのか？ウミガメに携わって45年の著者の経験と思いが詰まった一冊。

**『カニムシ』**  
森・海岸・本棚にひそむ未知の虫』  
佐藤 英文/著 築地書館




「誰もやっていないことをやりたい」。その思いで“カニムシ”の研究をスタートさせた著者。カニムシの生態・採集や飼育の方法はもちろんのこと、その40年にわたる試行錯誤の研究の日々をまとめた一冊。

**『ヒトデとクモヒトデ  
謎の☆形動物』**  
藤田 敏彦/著 岩波書店



地球上で唯一星形をした動物である「棘皮動物」。その中からヒトデとクモヒトデを取り上げ、知られざる生態について解説。なぜ星形なのか？ひっくり返ったらどうするのか？そんな素朴な疑問にも答える。

**『キリンの一撃 サヴァンナの  
動物たちが見せる進化のスゴ技』**  
レオ・グラッセ/著 鈴木 光太郎/訳  
化学同人



なぜキリンの首は長く、シマウマは縞模様なのか？アフリカのサヴァンナに住む動物たちを例に、生物固有の進化の面白さを説く。また、人間と他の生物種の多様な相互作用についても考えさせられる一冊。

## 下京図書館



〈住所〉  
〒600-8449 京都市下京区新町通松原下る富永町110-1  
修徳ふれあい会館4階  
(最寄駅：地下鉄「五条」市バス「五条西洞院」)

〈開館時間〉  
平日：午前9時30分～午後7時  
土・日曜日・祝日：午前9時30分～午後5時

〈休館日〉  
火曜日(火曜が祝日の場合は翌平日)・年末年始

貸出中の本もあります。予約できますので、詳しくはカウンター職員に聞いてくださいね！